

令和3年度 国語科実践・研究計画

部 員	○進藤 由貴子, 鎌田 雅子, 菅野 宣衛
-----	-----------------------

研究テーマ
言葉の力を自覚し、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

1 研究テーマについて

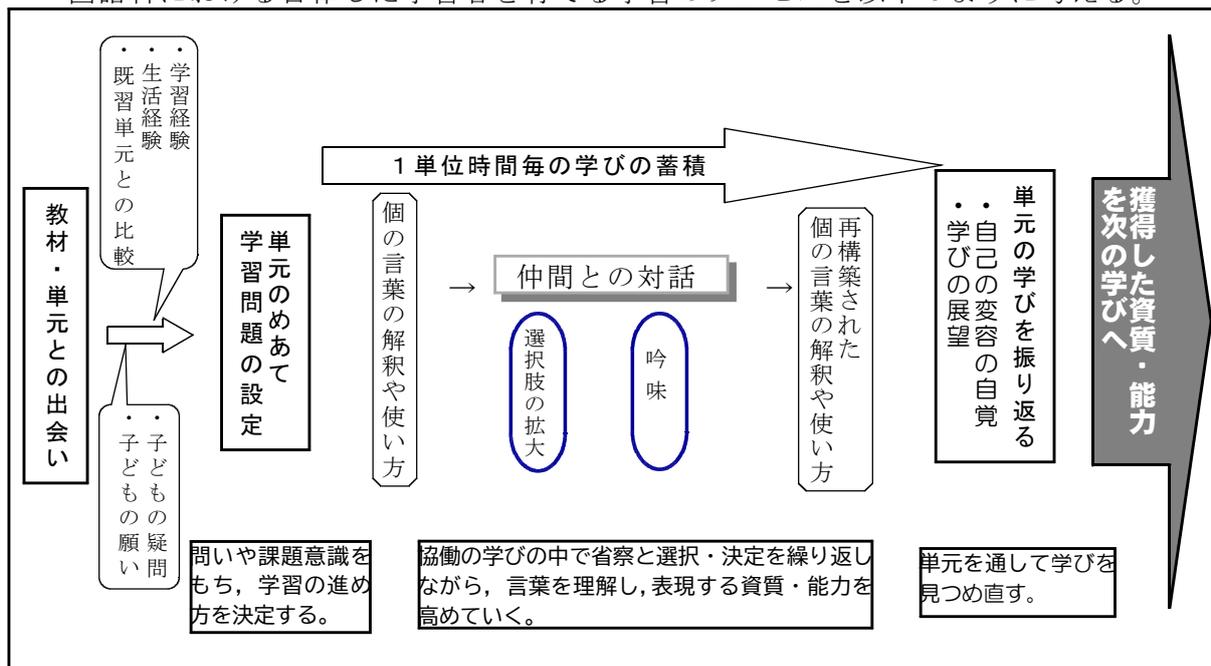
言葉の使い手として「話す」とき、「書く」とき、相手に自分の意図したことが伝わるか、自分の言葉の用い方を客観視できなければならない。また、言葉の受け手となり「聞く」とき、「読む」とき、相手の伝えようとしていることは何か、はっきりとは表現されていない真意も想像する力が必要となる。そう考えると、国語科で育みたい力は、用いる表現や、言葉の解釈の可能性を見だし、選択・決定する力である。そこで、学習の対象として言葉と向き合う中で子どもたちが言葉への知見を深めていく姿を期待し、「言葉の力を自覚し、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

国語科における「自律した学習者」を、これまでの生活経験、学習経験から言葉との向き合い方を自ら考え、言葉を適切に理解し、よりよく用いようとする姿と捉えた。また、「学びをつなぐ」を、これまで無自覚に使ってきた言葉の効果を自覚し、次の学習場面や生活の中で活用する姿と捉えている。

これまでの研究で、領域や文種の違いによる学びの系統性を子ども自身が意識できる場を設けることが、単元の学びを見通し、言葉に着目した問いを発する姿に結び付くことが分かった。また、既習内容を省察の視点に用いる姿を引き出す手立てとして有効であることも分かってきた。

一方で、協働的な学びの中で多様な考えに触れ、自らの選択肢を増やし、問いに対する最適解を省察するための新たな問いを子ども自身が発する手立てを探る必要が課題として見えてきた。協働的な学びの中で着目する言葉やその言葉の効果や意味といった省察対象が焦点化されたとき、深い学びにつながる「対話」が展開され、ねらいに迫る省察が行われていく。そして、協働の省察後に自分自身と向き合いながら行う選択・決定が更なる省察の場となり、省察と選択・決定を繰り返す学びのプロセスが言葉への知見を深める子どもの姿を引き出すのではないかと期待している。そこで、言葉を捉え直す省察とよりよい言葉の解釈や使い方を選択・決定しながら学習することの効果的な位置付けについて研究を進めていく。

国語科における自律した学習者を育てる学習のプロセスを以下のように考える。



図：国語科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

国語科で目指す「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のように捉える。

- ・言葉から受ける感覚と技法を関係付けて、言葉への理解を深めようとする姿
- ・根拠となる言葉を見付け、課題や問題に対する考えを互いに表現し合う中で新しい言葉の効果を見いだそうとする姿
- ・言葉の効果や言葉に着目した学び方を振り返り、単元を越えて活用する姿

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

- (1) 言葉に関する「問い」を基に選択・決定し、追究し続ける単元構成の工夫
 ○言葉に関する疑問や願い（付けたい力）を基に、学習問題を考えたり、学習計画を立てたりする活動を設定する。
- ・単元の学びを見通すことができるように、教材との出会いの場面で、これまでの学習経験を想起し、領域や文種による学びの系統性を意識できる場を設ける。
 - ・単元の中で自己の学びを調整し、深めていくことができるように、学習を進める中で生まれた新たな「問い」や学びの到達度への自覚を基に、学習計画や学習課題を全体で見直したり選択し直したりする場を設ける。
- (2) よりよい言葉の解釈や表現につながる省察の工夫
 ○言葉と言葉に関係付けて考えたり、既習を活かして思考したりする場を設定する。
- ・考えの根拠として、着目した言葉の差異を明らかにする場を設ける。
 - ・「対話」を通して、互いの考えを聴き、確認したり疑問を出したりしながら言葉がもつよさを共有する。
 - ・思考を深める「問い」を発する力を育てることができるように、教師が「問い」を発するモデルになって問い返す。
- 学びを自分の言葉で意味付ける場を設定する。
- ・学んだことを生かして作品として表現したり、活用したりする活動を設定する。
 - ・協働の学びで見いだした新たな価値を自覚し、単元を越えて活用することができるように自分の言葉でまとめる場を設ける。

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回校内研究会（5/19） 提案授業（鎌田：4 A） ・附属中学校公開研究協議会（6/4） ・附属小学校公開研究協議会（6/18） 提案授業（進藤：2 A） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案 ・公開研に向けての指導案検討及び事前研究授業
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究リーフレット執筆 ※部内研修会を兼ねる ・東北地区国語研究協議会秋田大会 ・文集「いちよう」編集・発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・実践・研究計画の修正 ・研究会等の参加による研修と情報交換
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究 ・授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の課題検討 ・次年度の実践・研究計画の立案

通年：教科部会、年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正